ISSN 1341-4046

埋文やまがた

2000年3月31日
第16号

山形市 小松原窯跡　SQ2窯内の瓦出土状況

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
YAMAGATA　PREFECTURE　ARCHAEOLOGY　CENTER
〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番1号　TEL 023-672-5301㈹　FAX 023-672-5586

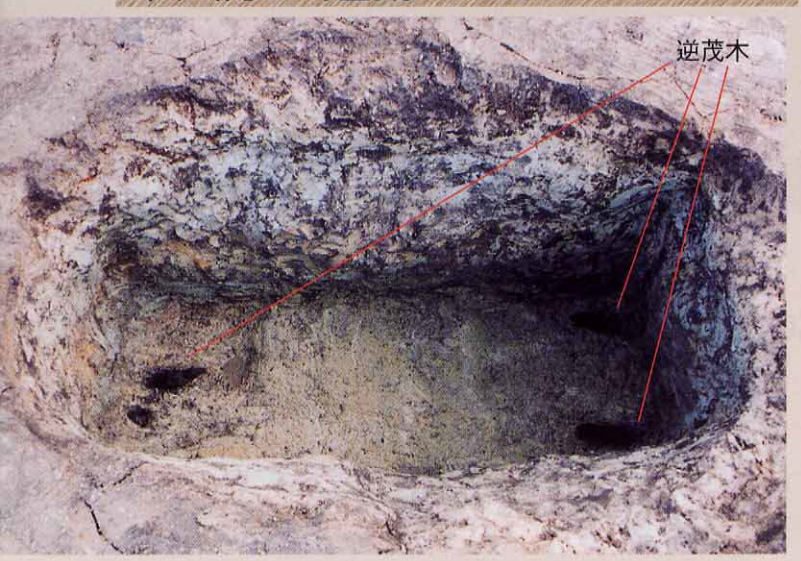
1999年度発掘調査トピックス

今年度の発掘調査は高速道路・一般道・施設などの建設と整備に先立って，山形県・地域整備振興公団・建設省・日本道路公団から委託を受け実施しました。時期は縄紋時代から近世にかけての28遺跡で，総面積は156,355平方メートルになりました。ここでは，それらの中から発見された貴重な遺跡を見ていきましょう。

縄紋時代のムラ

縄紋時代中期の集落跡で，約7,000平方メートルを調査しました。
特に落とし穴が16基見つかり，そのうち14基は85メートルにわたって一列に（写真赤線）見つかりました。

中川原C遺跡　新庄市

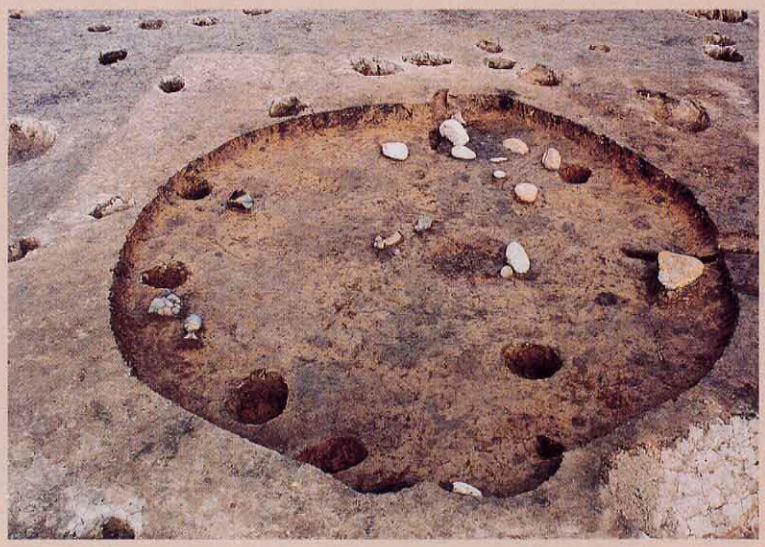


◀落とし穴は獣を捕まえるために地面に掘られたのものです。長さ1.8メートル，幅１メートルの長方形で，深さは１メートルほどです。
逆茂木という，先を尖らせて斜めに突き刺した杭も見つかっています。木製品が腐らずに発見されることは大変めずらしく，貴重な例です。　（鈴木　徹）

高瀬山遺跡　寒河江市

中期の住居跡

複式炉に使われた中期の土器



後期の住居跡

約１万2000年間続いた縄紋時代は形成期（草創期・早期），発展期（前期・中期），衰退期（後期・晩期）と大きく三分されます。
縄紋時代の住居は，形成期の一部を除いてほとんどが丸い形をしており，とくに中期（約4000年前）の住居には，複式炉という，この時期特有の石組み炉がつくられます。

北柳１遺跡　山形市

晩期の住居跡

ていねいにみがかれた晩期の土器

古墳時代のムラ

馬見ケ崎川がつくった扇状地の扇端からのびる微高地に，古墳時代のムラ（馬洗場B遺跡・藤治屋敷遺跡）が姿をあらわしました。ムラの近くを川が流れており，洪水の跡が確認されています。

馬洗場B遺跡　山形市

川のそばにあったいえの跡（竪穴住居跡）です。火災にあったのでしょうか。炭化した柱や米が出土しました。

川に杭が打ち込まれ丸太が渡されていました。川を横切るように作られていることから，橋や取水ぜきなどの機能が考えられます。

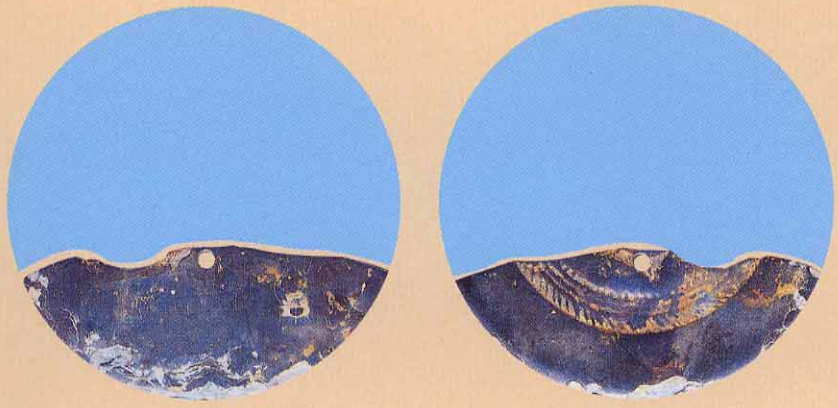


表　　裏

破鏡（内行花文鏡）

径81ミリの鏡を割ったものです。割れ口は磨かれ，直径2ミリの穴があいています。ペンダントのように使われていたのでしょうか？破鏡は，権力者やまつりを司る人が大切にしていたものです。この破鏡は日本海側では北限の出土資料になります。

藤治屋敷遺跡（とうじやしき） 山形市

容器：脚がついています。

建築材：板状で穴があいています。

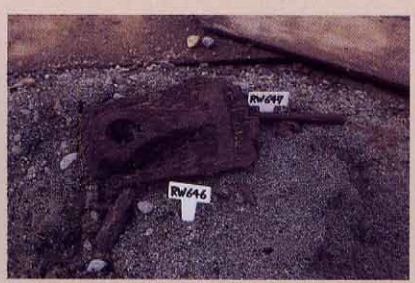
用途不明：曲線がみごとに加工され銃床のような形をしています。

鍬：刃先がふたまたになっています。

鍬：左の鍬の下からもう一枚出てきました。

横ぎね：何をついたんでしょうか？竪きねや臼も出土しました。

鍬？：農耕具の未製品でしょうか。



鍬：柄を差し込むあながあります。

幅約８メートル，深さ約1.5メートルの川が，微高地（びこうち）をぬうように蛇行（だこう）して流れていました。今回の調査では，170メートルの長さを確認しています。粗（あら）い砂の堆積（たいせき）する洪水（こうずい）の跡（あと）がありました。その下から，建物（たてもの）に使われていた木材（もくざい）や農作業（のうさぎょう）に使われた道具（どうぐ），土器が多量に出土しています。洪水で近くにあったムラが飲み込まれてきたのでしょうか？

（高桑弘美）

古墳時代

梅ノ木遺跡　山形市

約1,500年前の豪族の墓と考えられる円墳が見つかりました。土盛りして造られた墳丘はすでに削られて残っていませんが，円形にめぐる幅1.5メートルほどの溝跡によって直径15メートルの墓であることがわかりました。溝の内側に木柱列が巡るのは、この地域の特徴かもしれません。

一辺の長さが6～8メートルの方形の竪穴住居跡が30棟以上見つかりましたが，半数以上は何らかの理由で火災にあっていることがわかりました。

太夫小屋２遺跡　川西町

焼けた家の床面には建物の壁や屋根材などが炭になって残っていました。

向河原遺跡　山形市

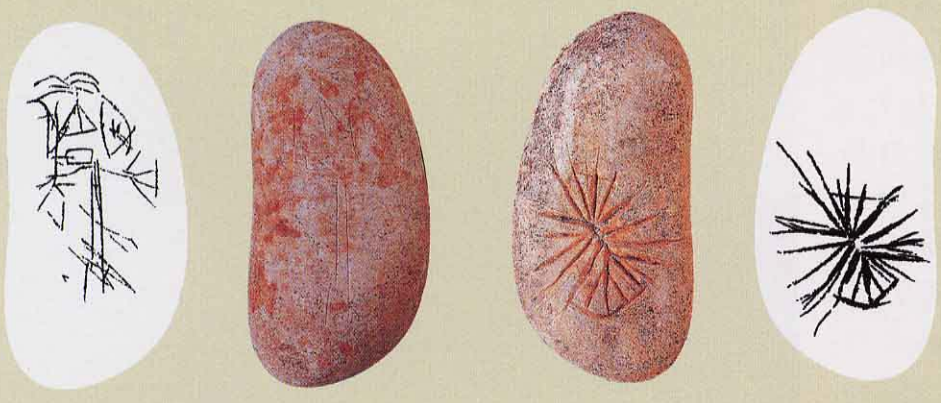


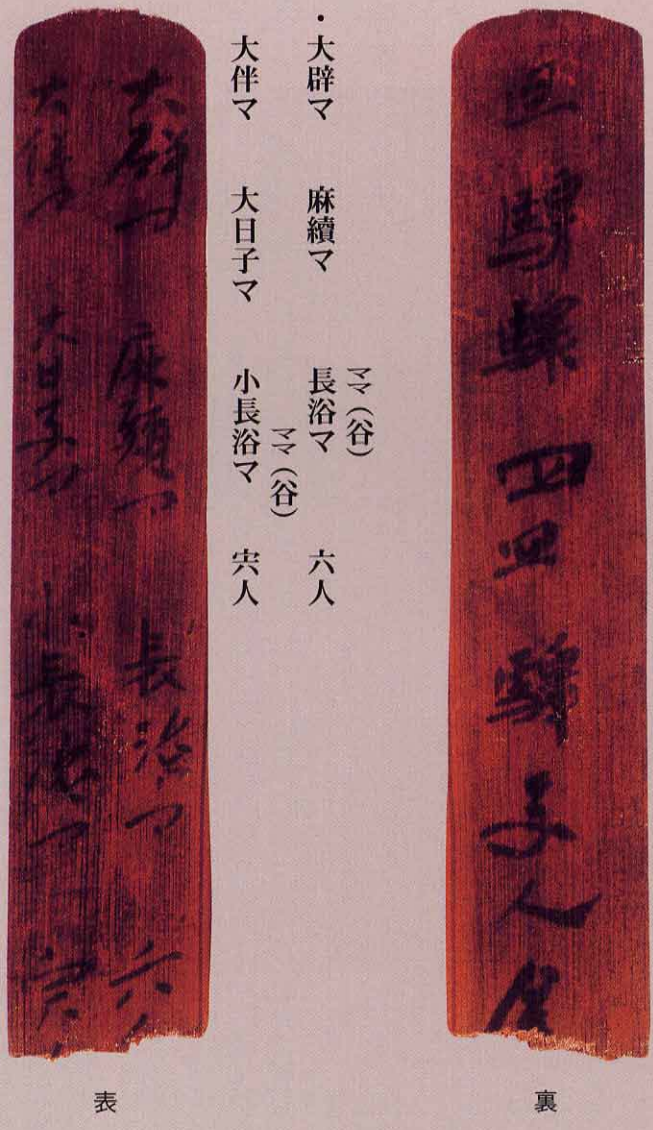
表　　裏

住居跡から見つかった線刻のある石製品ですが，時期や用途は今のところ不明です。おそらく金属製の道具で線を刻んだと考えられます。この模様にはどんな意味があったのでしょうか？

奈良・平安時代

山田遺跡 鶴岡市

奈良時代の川跡から木簡（長さ24センチ）が見つかりました。表には駅（うまや）という字が記され，また裏には８人の人名が書かれていました。
駅は当時の幹線道路につくられた，公用の旅行や通信のための施設です。木簡の発見により，鶴岡市大山付近に駅が存在したと思われます。



・「□驛驛皿皿驛子人□〔食力〕
・大辟マ　麻續マ　長浴マ（谷）マ　六人
大伴マ　大日子マ　小長浴マ（谷）マ　宍人

表　裏

小松原窯跡 山形市

３基の窯跡が見つかり，そのひとつは瓦を焼いたものでした。
左の写真は，出土した瓦を使って，葺き方の一部を復元したものです。軒先を飾る鐙瓦は県内の窯跡では二例目の出土となります。

（須賀井新人）

南陽市
稲荷森古墳

南陽市にある稲荷森古墳は約1,600年前につくられた墓です。当時，周辺地域を治めていた権力者が眠っているといわれています。全長約96メートルの大型の古墳で，山形県内最大，東北地方でも第６位の大きさを誇ります。上空から見ると，円形（後円部）と方形（前方部）が組み合わされた，前方後円墳と呼ばれる特異な形をしています。

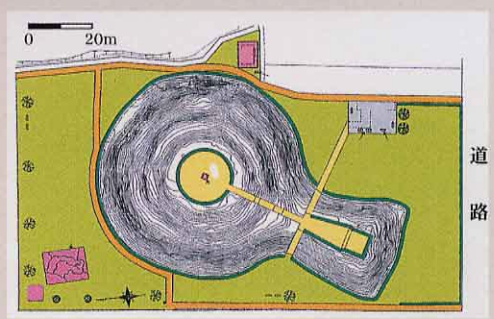
前方後円墳が盛んに造られたころを古墳時代と呼んでいます。近畿地方には100メートルをはるかにこえる大きさの前方後円墳が多数あります。これらは，大王の墓とみられています。各地の古墳の研究から，その形や大きさは，埋葬されている人の権力の大きさや大王との関係を示していると考えられています。稲荷森古墳は，大王の墓と形やつくりがよく似ており，大王との密接なつながりがみえてくる古墳です。前方後円墳の後円部は遺体が葬られ，前方部は亡くなった人を見送り，王位を継承する儀式が行われたところと理解されています。墓の形と共に，おごそかに行われるそれらの儀式も伝わってきたと思われ，形だけではなく精神的な文化の広がりも稲荷森古墳からうかがうことができます。

稲荷森古墳は，国指定され，当時の形がわかるように整備されています。古墳のまわりを歩き，後円部に登って下を見おろすと，その大きさや不思議な形に驚かされます。機械の無い時代，多量の土をどのように動かして古墳を築いたのか。古墳を舞台にして，どのような儀式が行われたのか。古墳に登るたび，古墳時代に想いをめぐらします。

（高桑弘美）

Illustration © Kurosaka Hiromi

史跡整備後の稲荷森古墳



現況の平面図

資料提供：南陽市教育委員会

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は，当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお，郵送料はご負担いただきます。

電話 **023(672)5301**（代表）

編　集　後　記

逆茂木や破鏡など発掘調査での貴重な発見にばかり目を奪われますが，その後の保存処理や保管方法がとかく見落とされがちです。適切に管理され広く活用されていく事が，埋蔵文化財を掘り起こした我々の本当の責務といえます。（郊）